

モビリティ・マネジメント教育普及の可能性

- 支援活動や教育委員会向けアンケート調査を通して -

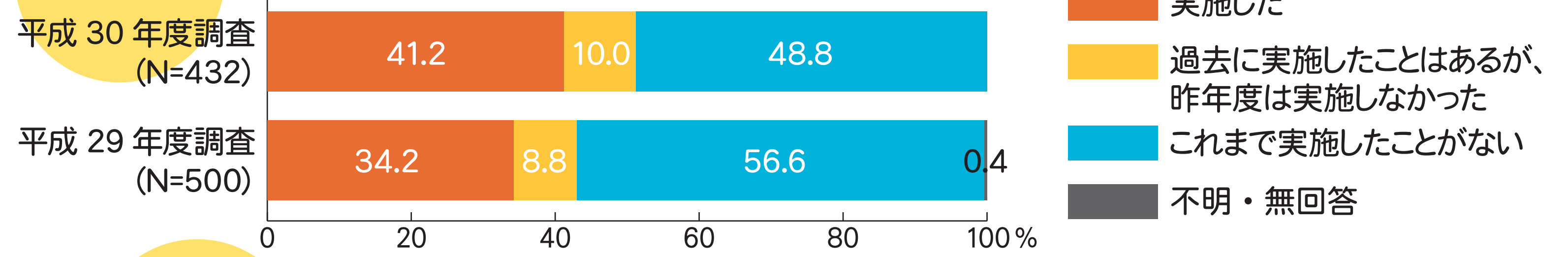
公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 岡本英晃
株式会社地域未来研究所 田中雅宣、貞松純子

1. 背景と目的

モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）に関して、自治体の関心度合いや実際の実施は近年増えてきているが、一方では「学校の協力・理解が得られない」といった意見も多い。

そこで平成 30 年度に実施した教育委員会向けアンケート調査結果や、これまでエコモ財団で行ってきた支援活動などを参考に、今後の普及可能性や方策を検討する。

交通環境学習の実施有無



取組む際に予想される問題や課題（自由記述を分類）

予想される問題や課題	件数
学校の理解・協力・調整	39 件 (22.8%)
担当課の人手不足	22 件 (12.9%)
学習内容・教材の検討	19 件 (11.1%)
効果への疑問・効果の分かりにくさ	19 件 (11.1%)

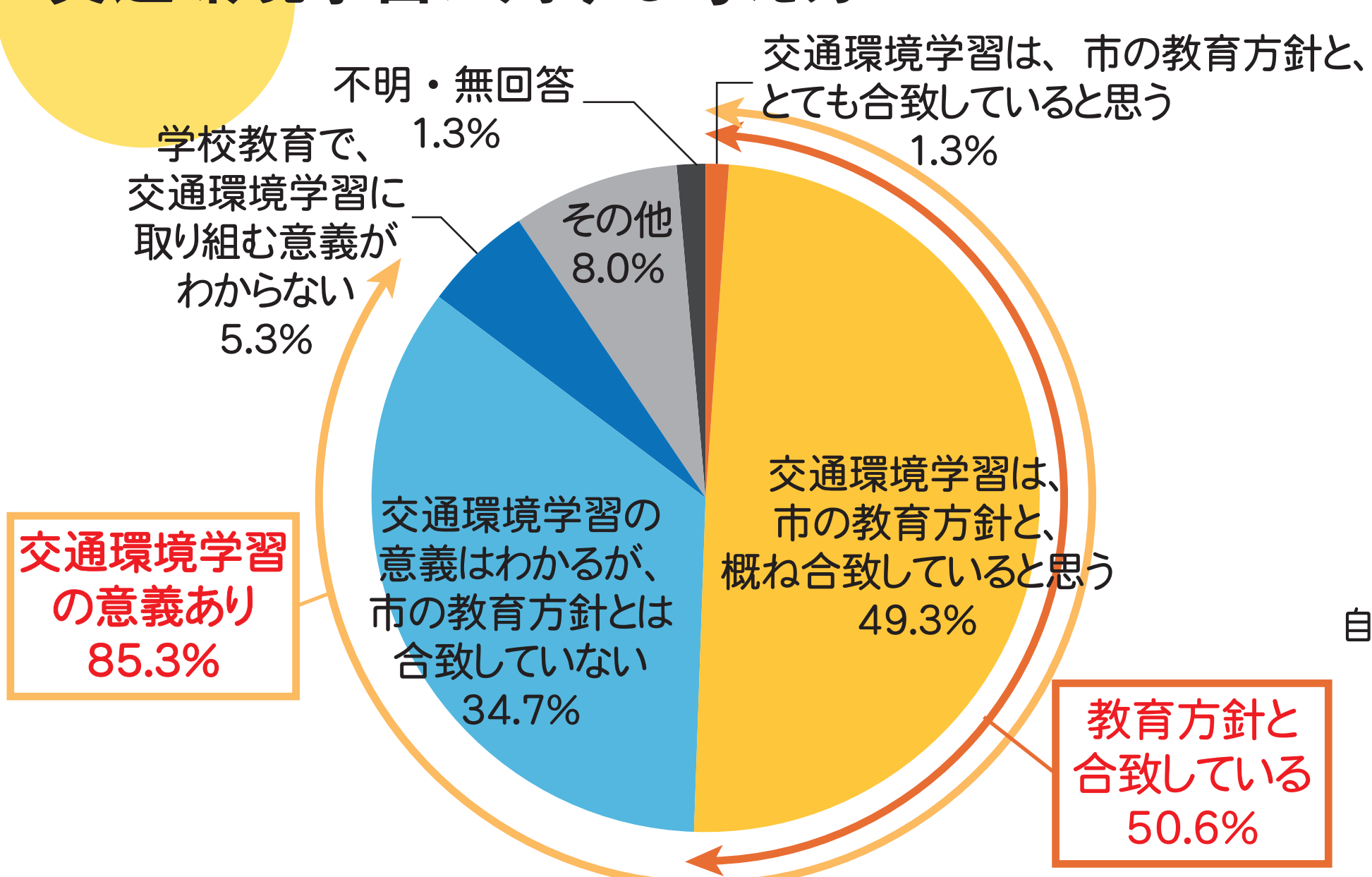
2. 教育委員会向けアンケート調査

交通環境学習の意義があると答えたのは 85.3% となっており、効果としては「公共の場でのルールやマナーを身につけることができる」、「バスや鉄道など、地域の生活や暮らしを支えている人がいることへの理解が深まる」、「住んでいるまちの理解が深まる」が 62.9% となった。

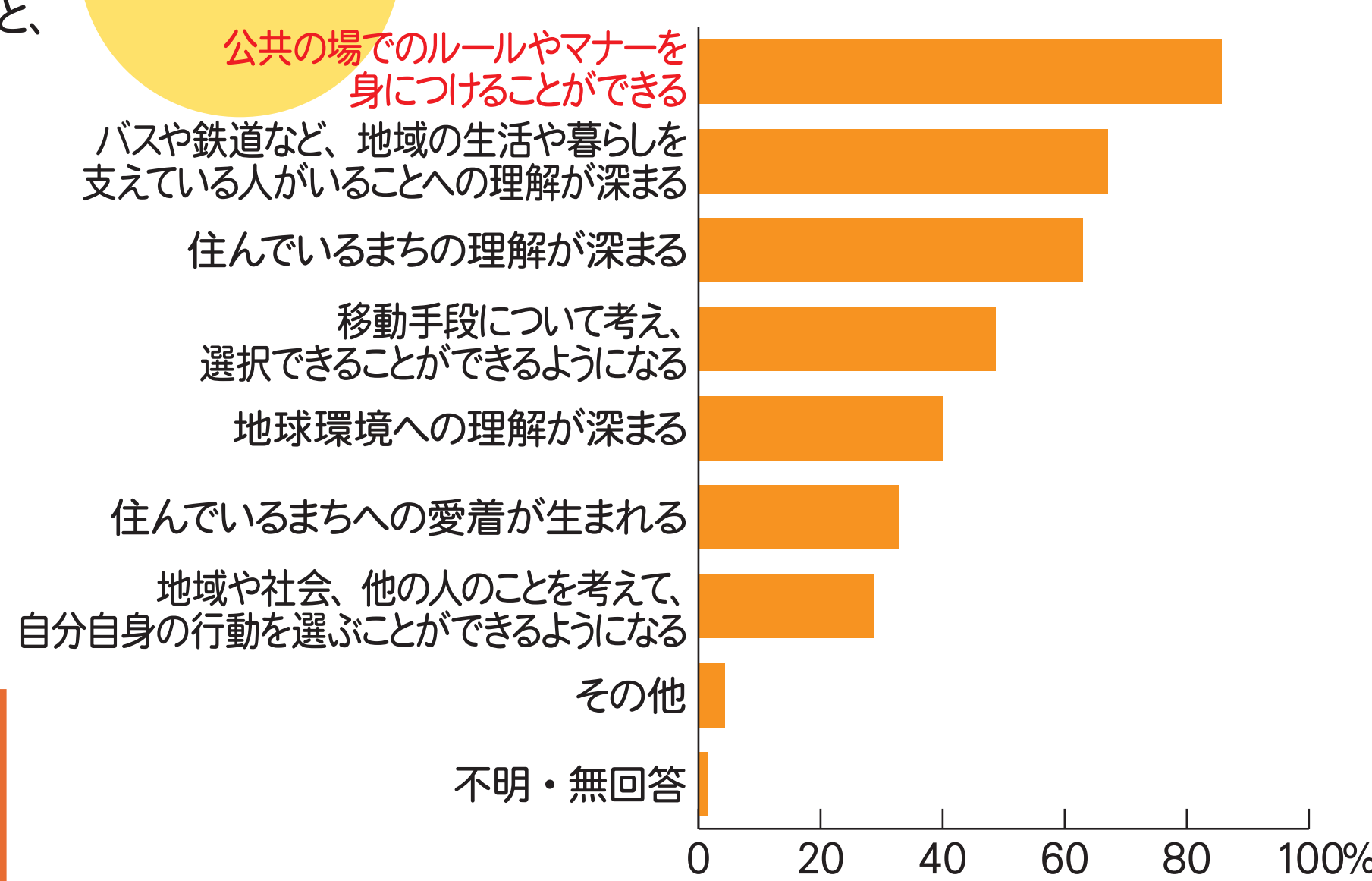
一方で課題としては、「授業時間の確保が難しい」77.3% と最も高く、次いで「教育現場に新しい取り組みを行う余裕がない」といった意見が多く、既存の教科学習の中に対応させていくかということが今後重要だと考えられる。

対象	全国の都道府県及び市・特別区の教育委員会 860 か所
回収数	75 件 (8.7%)
工夫点	アンケート調査票にモビリティ・マネジメント教育ポータルサイトの URL を記載し、そちらを見ていただいてから回答してもらうように依頼

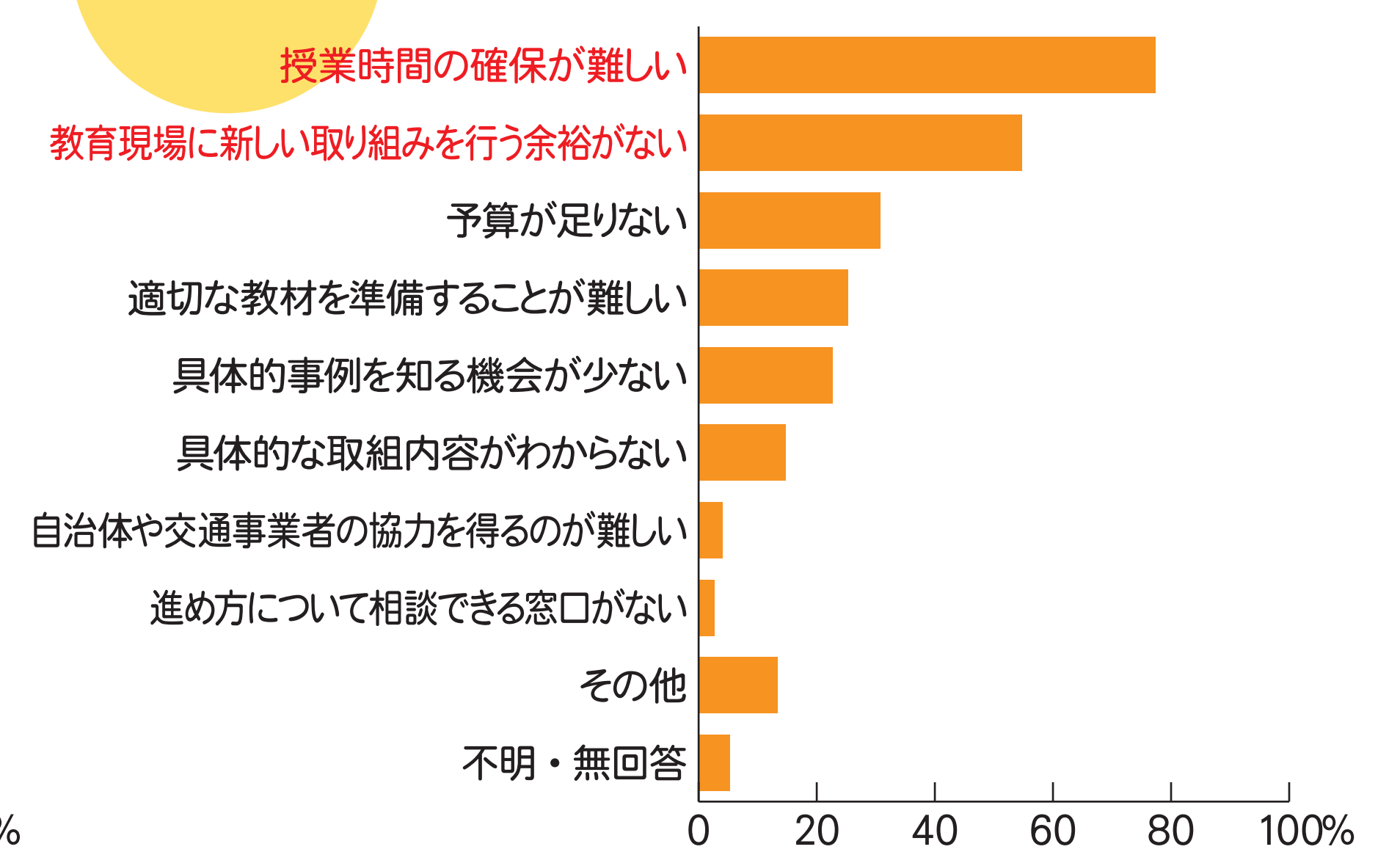
交通環境学習に対する考え方



交通環境学習の効果



交通環境学習に取り組む上での課題や障壁



3. 支援学校の実践例（東京都小平市立小平第十二小学校）

3 年生及び 4 年生の社会科の学習指導要領に合わせた学習を教員が考えて実施

平成 28 年度

【学習指導要領】

(1) 自分たちの住んでいる身近な地域や市（区、町、村）について、次のことを観察、調査したり白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。

ア 身近な地域や市（区、町、村）の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子

小学 3 年生の社会科の授業で、地域を走っているバスを題材に、バスの役割やキャリア教育も兼ね働く人の思いなどを学習

学習のねらい（時）	主な学習活動
バス（地域の公共交通）の役割を学ぶ。（第 1 時）	○小平市内を走るバスの路線図を見て、バスに乗った経験をしついで、バスの役割について考える。
バスの営業所を視察し、地域の交通の拠点になっていることを理解する。（第 2 時）	○西武バス小平営業所の見学をし、職員の方に話を聞いて、ここから各路線へバスが出ていることを知る。また路線などでバスが走るなど、地域の拠点となっていることを知る。営業所で働く人々の役割や働き、さらに詳しく調べたい、知りたいことを探す。
営業所見学でわかったこと、さらに知らないことを共有し合う。（第 3 時）	○営業所見学でわかったことや、さらに調べたいことなど話し合ったことなどを営業所の拡大図に付箋紙で貼り付け、全員で共有し合う。
バスの営業所の方の話を聞き、安全に運行する工夫や、乗客の安全や快適につながることを理解する。（第 4 時）	○営業所に行き、車庫員さんなど実際に働く人の話を聞く。バスの中の工夫や、清掃などについても見学し、乗客の安全や快適につながることを理解する。
西武バスの学習を通して学んだことを新聞にまとめる。（第 5 時）	○これまで学習したことを、授業それぞれが関心の高い観点に基づいて、新聞を作る。



平成 29 年度

【学習指導要領】

(6) 県（都、道、府）の様子について、次のことを資料を活用したり白地図にまとめたりして調べ、県（都、道、府）の特色を考えるようにする。

イ 県（都、道、府）全体の地形や主な産業の概要、交通網の様子や主な都市の位置

近くを走っていて延伸が計画されている多摩モノレールを題材に、環境にやさしい乗り物やバリアフリーへの取り組み、また地域の人々や産業を支える役割があることを学習

学習のねらい（時）	主な学習活動
都内の主要交通について知り、多摩モノレールに関心をもち、学習課題を考える。（第 1 時）	○都内の主要交通を白地図にまとめ、都心に沿った路線が多い、多摩モノレールは多摩地区を縦断する形で作られていることを理解し、関心をもち、さらに詳しく調べたい、知りたいことを探し、学習課題をたてる。
多摩モノレールと地域のつながりを理解する。（第 2 時）	○モノレールができることで地域の人々にとってどのようなことがあったか調べ、路線延長の話題にふれる。
多摩モノレールの運行について知り、路線の役割を知る。（第 3 時）	○電車路線のない国分寺市の人の思いや、行政の取組について知る。ゲストティーチャーを招く。
多摩モノレールの見学で、エコな乗り物であることやバリアフリー対策、地域とのつながりについて知る。（第 4 時）	○モノレールの駅に行き、駅員さんなど実際に働く人の話を聞く。モノレール自体の工夫や、安全対策などについても見学し、乗客の安全や快適につながることを理解する。
多摩モノレールの学習を通して学んだことをポスターにまとめる。（第 5 時）	○これまで学習したモノレールの良さや、地域の中での役割を、グループごとにポスターにまとめる。



4. まとめ

教育の現場では交通環境学習の意義はあると考えられていることがわかった。ただし、教育現場では授業の実施だけでいっぱいとなっており、「利用促進」といったような新たな目的をもった授業は実施しにくいと思われる。それよりも「公共の場でのルールやマナーを身につけることができる」、

「バスや鉄道など、地域の生活や暮らしを支えている人がいることへの理解が深まる」、「住んでいるまちの理解が深まる」といった教育的効果を前面に出すこと、また様々な教科での取組事例やよい教材の提供、教員や生徒の負担軽減に向けた工夫等が必要である。

参考となる教材等は、モビリティ・マネジメント教育ポータルサイト (<http://www.mm-education.jp/tebiki/index.html>) に掲載しています。